

第9回 広域機関システムの開発に関する第三者評価委員会 議事録

日時：平成29年3月23日（木）10:00～11:30

場所：電力広域的運営推進機関 ミーティングルームA

出席者：

- 中村 英夫 委員長（日本大学 特任教授）
- 大谷 禎男 委員（弁護士 元東京高等裁判所部総括判事）
- 喜入 博 委員（KPMG コンサルティング株式会社 顧問）

配布資料：

- ・議事次第
- ・（資料1）評価委員会報告書（案）
- ・（資料2）広域機関システムの開発に関する第三者評価委員会からの報告

議題1：報告書レビュー（評価・おわりに）

- ・事務局から、資料1の「評価委員会報告書（案）（以下、「報告書」という。）」の「4. 評価」、「5. おわりに」パートの内容説明を行った。
- ・続いて、資料2の「広域機関システムの開発に関する第三者評価委員会からの報告（以下、「プレゼン資料」という。）」の内容説明を行った。

[主な議論]

- プレゼン資料9頁にある「プロジェクト計画書」は広域機関が作成するのか？
→（事務局）そうである。計画がなければ管理もできない。主体的な取り組みが求められる。
- プレゼン資料9頁にある「プロジェクト計画書」は、広域機関が作成し、プロジェクト全体を統括する目的で作成されるものとの説明があったが、実際の開発行為を行う開発会社は、自己の責任範囲における計画書は作成しないことになるのか。
→（事務局）開発会社が、自らの計画書を作成することは当たり前のことであるが、そのことについても報告書に明記する。
- プロジェクト計画書は、定期的にアップデートして、役員にも報告される体制、手続きが必要と思う。
→（事務局）「4.3. システム開発の要件定義・調達・計画」に「必要に応じて、見直し、役員へ報告する」と記載する。
- 報告書23頁には、「本来は、開発会社の人材育成は広域機関の義務ではないが、」との記載があるが、広域機関は、プロジェクト遂行にふさわしい人材が集まっているかどうかを確認する必要がある。「育成」ではなく、まずは有能な人材を「確保」すること。それがうまくいかない場合に、次にスキルの底上げを図るという流れだと思う。言葉は、「育成」ではなく「確保」としたほうがよい。
→（事務局）了解した。
- 報告書22頁に、「（ドキュメントの）間接的なレビューを実施する」との記載があるが、レビューは効果的なタイミングで行うことが重要なので、サンプリング調査の結果により各工程の早期での対応が可能となるよう、各工程の最初の段階で実施されるよう記載願いたい。

→（事務局）了解した。

- ・事務局から、次回の委員会を含め、各方面への報告・説明、公表までのスケジュール等について説明を行った
- ・その他、字句修正等を行った後に、報告書の資料構成について確認を行った。
- ・次回は、理事長及び理事に対して委員会報告を行うこととし、次回予定（第10回委員会 3月29日（水）16：00～）を確認して、第9回委員会を終了した。

以上